

# 名古屋の古道・街道

池田 誠一

## 【19】平針街道…平針から山崎へ

### 1 宮参りの道

神社への参詣は、古くから人々の大切な行事でした。新年や祭礼、人生の節目、豊作や防火・厄除けなど、ご利益に応じていろいろな神社への参詣のスタイルができていたと考えられます。

名古屋付近では熱田神宮への信仰が厚く、初詣を始めとして熱田の宮へは城下や周辺の村々からの参詣がありました。名古屋市内の古い道標に、「みや」とか、「みや道」という標示が見られます。それらの道標は、熱田への参詣者が周辺でも目立ったことを物語っています。

飯田街道の平針の西口の交差点の角に小さな

石仏がまつられています。その石仏には左右の側面に「右 なごや道」、「左 みや いせ道」と刻まれており、ここから左に熱田に向かう道、さらには東海道を經て伊勢へと続く参詣の人々があつたことを示しています。この平針の西口と山崎(瑞穂区)で東海道を結ぶ道が「平針街道」と呼ばれた道です。(図1)

### 2 東海道と平針を結ぶ道 …平針街道

#### (1) 平針街道

ここで取り上げる平針街道は、さきほどの平

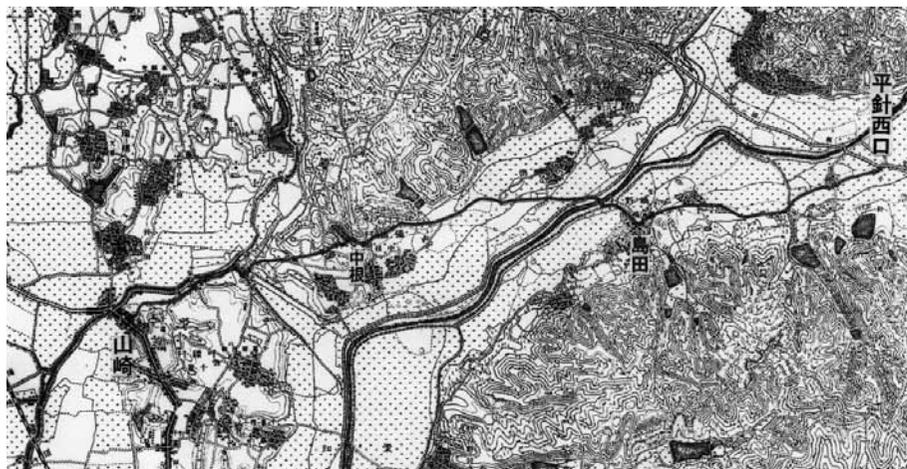


図1 平針街道  
右手の平針西口から、島田、中根を經て、東海道の山崎へ

針西口の分岐から西に八事丘陵の裾を島田、中根を通過して塩付街道と交差し東海道に合流する道です。呼続街道と呼ばれたときもありました。

平針街道と呼ばれる道は他にもあります。岡崎街道(飯田街道)も平針に向かう道はいずれも平針街道と呼ばれています。明治になって国鉄の熱田駅から東に大喜を通り中根で今回の平針街道につながった道も郡道平針街道と呼ばれました。

## (2) この道の意味

江戸時代、名古屋から平針を通過して岡崎に向かう岡崎街道は、三河の方からは宮道とも呼ばれていたといいます。確かに三河の東部や尾張の東南部から熱田へは東海道に回るよりも平針を通る方が便利です。

また少し大きく眺めてみると、この道は当時主要幹線だった東海道と信州飯田に向かう伊奈街道を結ぶ道でもあります。(図2) そこにはどのような需要があったか定かではありませんが、八事丘陵の裾を行く道はいろいろな目的の人が行き交っていたのかもしれない。



図2 東海道と飯田街道を結ぶ、山裾の道



神明社・役場跡

南に行き、平針西口の交差点に出ます。交差点の中、西側に大きな木があります。その下に小さな祠があり、中に追分のお地蔵さんがまつられています。のぞくと左側に「左 みや いせ道」とあるのが判ります。

\*

ここからしばらくは区画整理のため昔の街道の面影はありません。ただ昔の街道のルートは交差点から島田に向かう幹線道路を1本西に行き、1本北に入った道がほぼそれに当たります。

きれいに区画整理された道は左に緑の丘が見え、右は緩やかに天白川に向かって下がっています。1\*ほど行ったところで道が少し曲がり、休日診療所に出ます。この西側の角に、昔ここに神明社がありその跡に天白村役場があったことを記した石碑が並んでいます。街道は西にカーブして島田神社の前に出ます。

島田は古代、嶋ツ田と呼ばれ、島田臣が住んでいたとされる古い歴史のある所です。島田神社は室町時代に少し西にあった島田

## 3 平針から山崎へ

少し距離がありますが、この道を平針の西口から山崎に向かって歩いてみましょう。スタートは地下鉄の鶴舞線原駅が便利です。駅を出て



平針西口の祠 中に「みやいせ」と



▲八事丘陵の裾をいく平針街道

◀毛替地蔵のある地蔵寺

城の城主、室町幕府の管領家につながる牧氏の鬼門守護の神でした。その西隣にはその牧氏が創建した地蔵寺があります。本堂の向かいに尾張六地蔵の一つ毛替地蔵がまつられたお堂があります。毛替というのは馬の毛色を変えるということですが、どんな願い事だったのでしょうか。

街道は広い道に遮られるので迂回し、西側に出ます。すぐの道を右に曲がりますが、この角から1本西を右に曲がって直ぐ左に行くと島田城址があります。小高い丘の上に小さな牧神社がまつられています。この付近は室町時代、鳴海鴻を迂回する鎌倉街道の拠点だったのです。

元に戻って北に進み広い道を迂回して少し行くと、道は左にカーブして河岸の公園に入り天白川に出ます。右向こうに音聞山の丘が望めます。

\*

新島田橋の下流100mほどで川を渡ると、道は左に岸に沿って進み住宅街に下りていきます。300mほど行き下八事の交差点に手前で道は住宅街の中に消えます。広い通を渡って西に進み、昭和高校の西側の、広い通から2本北の道が旧

道です。少し歩きやすくなった道は西に真っ直ぐ伸びています。

辺りはすぐ右側が急な坂になっており、八事丘陵の裾の道であることが分かります。その裾の道を進むと右側の上の方に弥富小学校が見えてきます。この左右には戦国時代には中根城が



道は急に細くなって昔の幅に

ありました。その北城は小学校を上った所に、中・南の2つの城は左手、南に伸びた八事丘陵の先端、鳴海鴻を見下ろす高台にありました。その付近には有名な中根銅鐸(重要文化財)を出土した所があるなど、古くから人が住みついていたことが分かります。

弥富小学校の下の所から道は急に細くなり右にカーブします。最近まで街道の面影を残す所でしたがきれいに舗装されてイメージが無くなってしまいました。カーブした道はすぐ広い幹線道路に出ます。街道は少し進んだ所で左に曲がり、通を渡って西の道に入ります。が、250mほど行った所で再度住宅地の中に消えます。

南に広い弥富通に出て坂を下ります。弥富通1丁目の交差点のひとつ先の信号を南に入って少し左に曲がった所で旧道に出会います。昔ここに地蔵がまつられていたことを記した



小さくなってしまった島田城址

案内板があります。ここで塩付街道と合流して南に進み100<sup>㍍</sup>程で水路、塩付橋を渡ります。この辺りは江戸時代の一時期天白川を山崎川に付替えた時の水路が流れていた所です。橋を渡って左が塩付街道、右が平針街道に別れます。道は少し進んで左にカーブし山崎川に出ます。対岸は新瑞橋のバスターミナルで、辺りには自転車が溢れています。

\*

新瑞橋の北側で幹線道路を渡ります。旧道は川の岸から南に住宅地を横切って大きな工場の南側の道に出ます。あとは緩やかに曲がりつつ名鉄線を渡り、少しで終点の旧東海道に出ます。交差点を右に150<sup>㍍</sup>程行けば山崎橋です。

山崎橋まで来たらひとつの史跡を見て帰りましょう。川の手前を上流に行き、名鉄線を越した次の歩道橋を北に渡ります。土手を下り、進むと広い道路の手前に稲荷神社があります。ここには平安時代平清盛に左遷された太政大臣藤原師長の井戸田の塾居跡です。広い通に出ると左に地下鉄の妙音通の駅があります。



太政大臣藤原師長の塾居跡の碑

## 4 この道は古代からの道？

昔、まだ鳴海潟があって、島田辺りまでが海だった頃、海を避けてその北側の丘陵の裾を西から東に向かう道がありました。瑞穂公園には縄文時代からの遺跡があり、東に中根、島田、植田、と点々と遺跡が続いています。以前塩付街道のときに紹介したあゆちの泉の跡も近く、事実とすれば、万葉時代にはこの近くに街道があり、大和の国でも知られていたこととなります。

鎌倉時代には、鳴海潟を渡れない時の鎌倉街道の迂回路が鳴海から島田を迂回して井戸田へと回っていました。そのころでしょうか、そこから望む八事の音聞山が京都にも知られた歌枕になっています。

そして江戸時代は鳴海潟が陸地化し、東海道は鳴海から笠寺へと南の方を通過することになりました。しかし、平針、島田、中根、山崎と八事丘陵の山裾を行く道は熱田や伊勢への参詣路、東海道を西国から信州に抜ける道などとして歩かれ続けた。…この平針街道にそんな古代からのロマンを追うのも楽しいのではないだろうか。

片蔭を 追いつたどりて はやき道

〈主な参考文献〉

- ① 浅井金松「天白区の歴史」(1963、愛知県郷土資料刊行会)
- ② 浅井金松「続天白区の歴史」(1987、愛知県郷土資料刊行会)



塩付橋(塩付街道は左に、平針街道は右に)



大きな工場の横をゆく